

10月の食品ロス削減月間に合わせ 「信州発もったいないキャンペーン」を実施します

令和6年(2024年)9月20日
環境部資源循環推進課 新井、勝野
電話：026-235-7181 (直通) 内線2795
FAX：026-235-7259
E-mail：junkan@pref.nagano.lg.jp

○取組の概要

10月の食品ロス削減月間に合わせ、小売店、飲食店、宿泊施設等の事業者、市町村と連携して、「信州発もったいないキャンペーン」を実施するほか、「残さず食べよう！30・10運動」を積極的に呼び掛ける。

○～県民挙げて巨大怪獣「フードロスラ」に立ち向かえ！～

「フードロスラ」を活用した「信州発もったいないキャンペーン」の実施

- 味の素株式会社は、フードロス問題の取組として、山崎貴監督(松本市出身)に巨大怪獣「フードロスラ」(※)の映像制作を依頼し、家庭での小さな工夫により食材を残さずに使用することを啓発。
※年間約244万トン(令和3年度推計)にも及ぶ家庭内の廃棄食品の“悲しみ”から生まれた怪獣。
- 今回の「信州発もったいないキャンペーン」において、包括連携協定に基づき長野県と味の素株式会社が連携して啓発素材(ポスター及びレールポップ)を作製。「フードロスラ」を用いた自治体との連携は、長野県が初となる。
- スーパーマーケット、コンビニエンスストア等協力事業者(32事業者1179店舗)にポスター等を掲示し、家庭で余った食材を残さず使うことや、消費期限・賞味期限間近の食品から順番にとる「てまえどり」を消費者の皆様呼び掛ける。
呼び掛けは、県内10地域の街頭やイベント、ラジオCM等でも行う。

○「残さず食べよう！30・10運動」の呼び掛け

飲食店、宿泊施設等に「開始30分間とお開き前の10分間は自席で料理を楽しみ、料理を残さず食べること」をお客様に呼び掛けるよう要請。

消費者の皆様への呼び掛けは、県内10地域の街頭やイベント、ラジオCM等でも行う。

ポスター
(A2)

その怪獣は、日本各地の家庭から生まれた。

Eat Well, Live Well.
Aji
AJINOMOTO

体重：244万t
体長：推定250m

フードロス監督VFX:
山崎 貴氏 (松本市出身)

小さな調味料と小さな工夫で、
フードロスに立ち向かえ!

レスキュー
フードロス
特捜隊

フードロス
削減レシピは
こちら

【TOO GOOD TO WASTE
～捨ててもんじやない～】は
味の素社のフードロス削減プロジェクトです。

信州発!
食べ残しを減らそう県民運動～e-プロジェクト～
もったいないキャンペーン
長野県版エシカル消費 すぐ食べるなら手前からとってみる。「もったいない」が食品ロスをへらします。

長野県
Nagano Prefecture

長野県は、県内事業者の
協賛と連携し食品ロス削減の
取組を推進しています。

長野県と味の素株式会社は、長野県包括連携協定を締結して循環型社会の形成に取り組んでいます。



「フードロスラ」
特設サイトQR

※ポスターのデザインは、味の素(株)が制作したデザインを基に、環境部の若手職員を
中心に構成する「環境部広報戦略チーム」において、本キャンペーン用に検討・作製。

ルールポップ

長野県 × 味の素 信州もったいないキャンペーン
すぐ食べるなら、手前からとってみる。
エシカル消費で食品ロスを削減!

長野県版
エシカル消費
特設サイトは
こちら

小さな調味料と小さな工夫で、
フードロスラに立ち向かえ!

フードロス
削減レシピは
こちら

【TOO GOOD TO WASTE
～捨ててもんじやない～】は
味の素社のフードロス削減プロジェクトです。

1 食品ロスの現状

○食品の流れイメージ

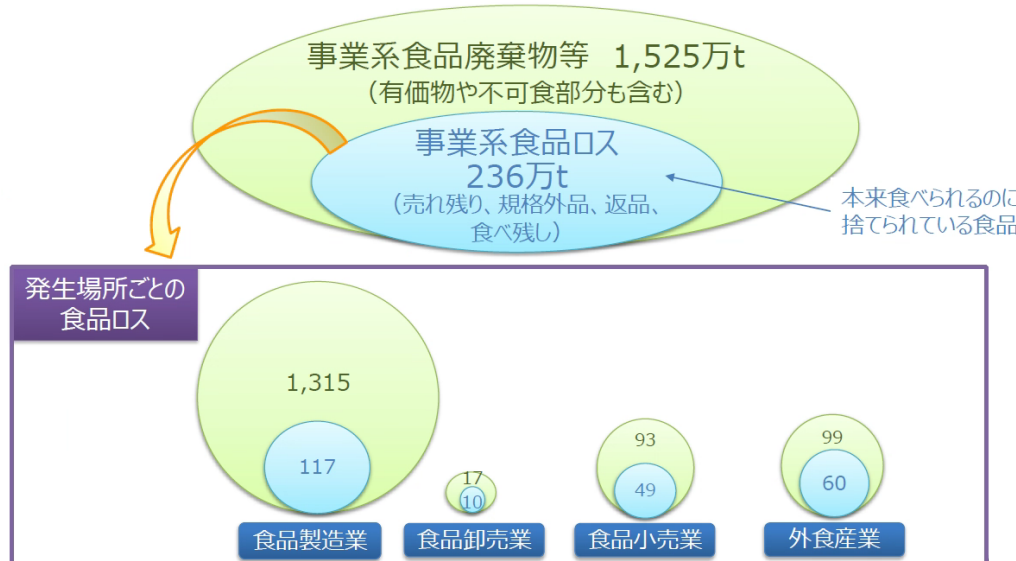
生産されたものが消費者にたどり着くまでのそれぞれの過程で食品ロスが発生。

生産 ⇒ 製造・加工 ⇒ 卸・流通 ⇒ 小売・外食 ⇒ 消費者・家庭

○日本の食品ロス発生量

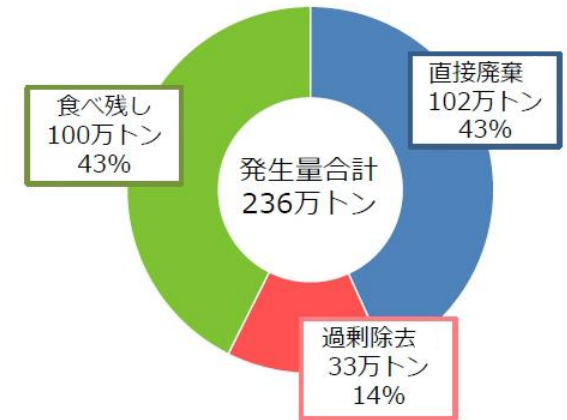
食品ロス（国民に供給された食料のうち本来食べられるにもかかわらず廃棄されている食品）の年間の発生推計量は約472万トン（事業系・家庭系ともに約236万トン）※令和4年度推計値

<事業系食品ロス等発生量>



出典：農林水産省「食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢」〈令和6年7月時点版〉

<家庭系食品ロス発生量>



出典：環境省「我が国の食品ロスの発生量の推移等」

2 部局横断による削減の取組

食品ロス削減の取組を戦略的に進めるため、生産・製造、販売、消費等の各過程における発生状況等を分析の上、部局横断で対策の検討を開始。